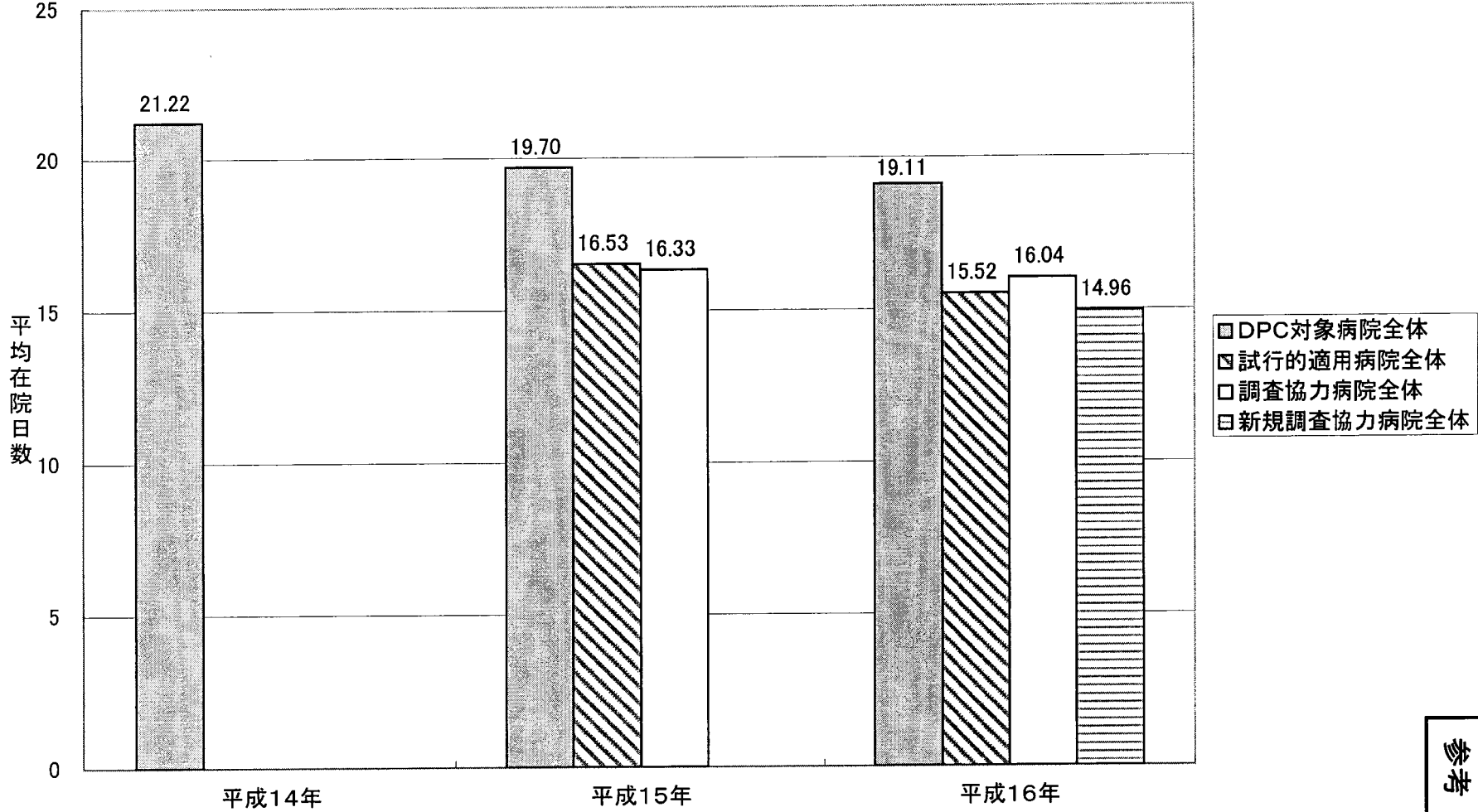


# 平均在院日数



参考

## 在院日数の平均の差の理由の検討方法について

- 今回用いた在院日数の平均の差の理由の検討方法について、平均在院日数が2日短縮された事例で説明すると以下のとおり。

(事例に関する前提条件)

- 平成14年から平成15年にかけてDPC別の在院日数が減少している。
- 一方で、平成14年から平成15年にかけて、在院日数の長い診断群分類に該当した件数が増加している。
- 在院日数の平均の30日から28日の現象は、二つの要素(DPC毎の在院日数の変化とDPC毎の患者数の変化)の影響を受けている。

DPC	平成14年		平成15年		平均在院日数の変化	件数の変化(件)
	件数	在院日数(平均)	件数	在院日数(平均)		
010010	5	20.0	2	15.0	-5	-3
020010	4	30.0	3	20.0	-10	-1
030010	3	40.0	5	30.0	-10	2
040010	2	50.0	4	40.0	-10	2
050010	1	10.0	1	20.0	10	0
合計	15	30.0	15	28.0	-2	0

平均の差 -2.0

(在院日数の平均の変化による要因)

- DPC毎の患者数の構成を平成14年にそろえると、平成14年から平成15年の各DPCの在院日数の平均の変化による影響のみが評価できる。
- 下の例では、各DPCの平均在院日数の変化による合計平均在院日数の変化を評価すると、-7日である。

DPC	平成14年		平成15年	
	件数	在院日数(平均)	件数	在院日数(平均)
010010	5	20.0	5	15.0
020010	4	30.0	4	20.0
030010	3	40.0	3	30.0
040010	2	50.0	2	40.0
050010	1	10.0	1	20.0
合計	15	30.0	15	23.0

平均の差 -7.0

(DPC毎の患者数の構成の変化による影響)

- DPC毎の在院日数の平均を平成14年にそろえると、平成14年から平成15年のDPC毎の患者数の構成の変化による影響のみが評価できる。
- 下記の例では、DPC毎の患者数の構成の変化による影響は、+6日である。

DPC	平成14年		平成15年	
	件数	在院日数(平均)	件数	在院日数(平均)
010010	5	20.0	2	20.0
020010	4	30.0	3	30.0
030010	3	40.0	5	40.0
040010	2	50.0	4	50.0
050010	1	10.0	1	10.0
合計	15	30.0	15	36.0

平均の差 6.0



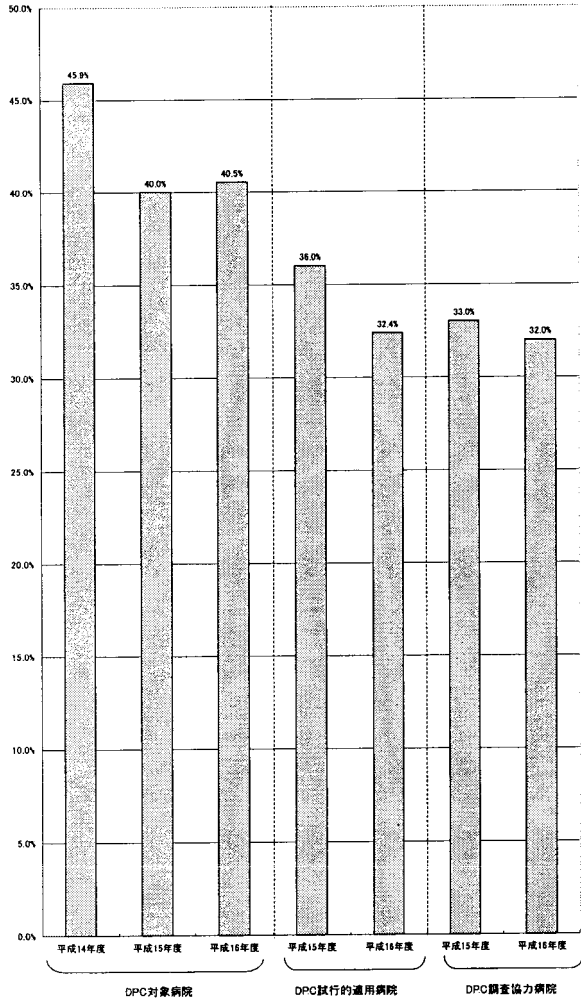




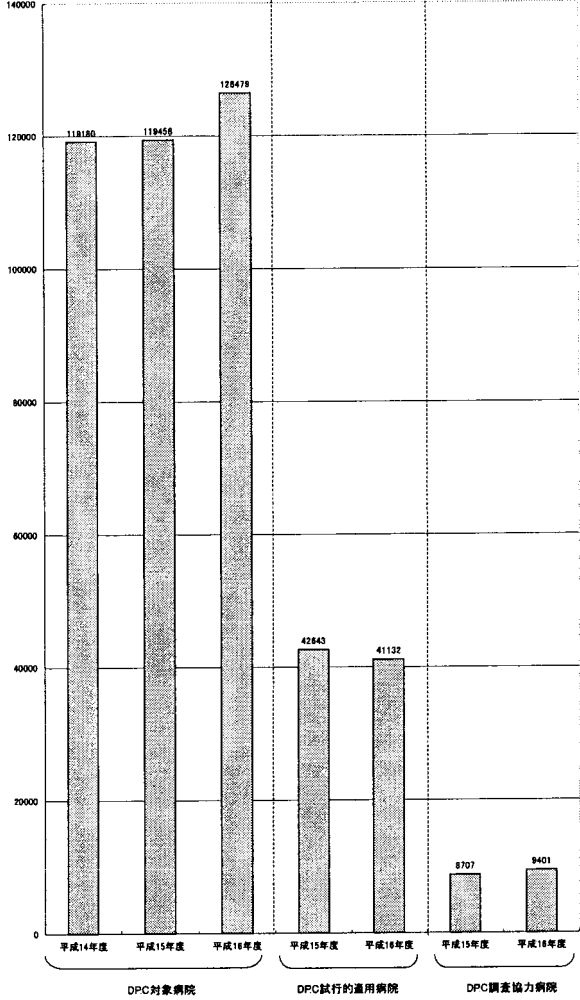
# 他院よりの紹介

9

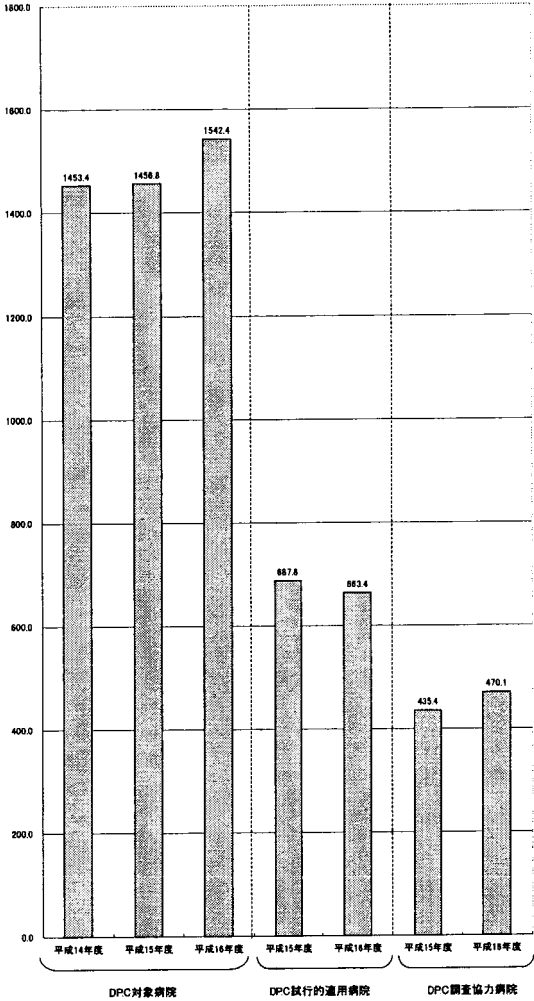
他院よりの紹介ありの率



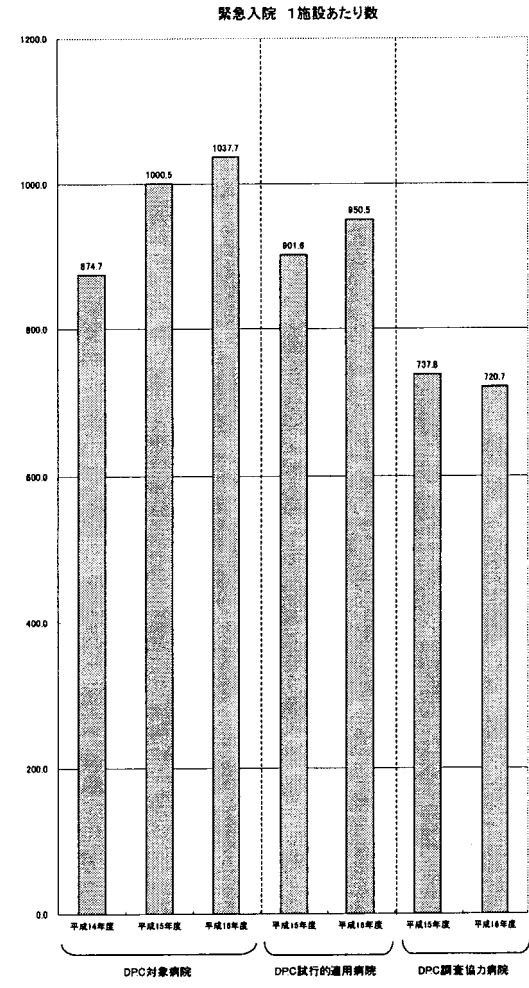
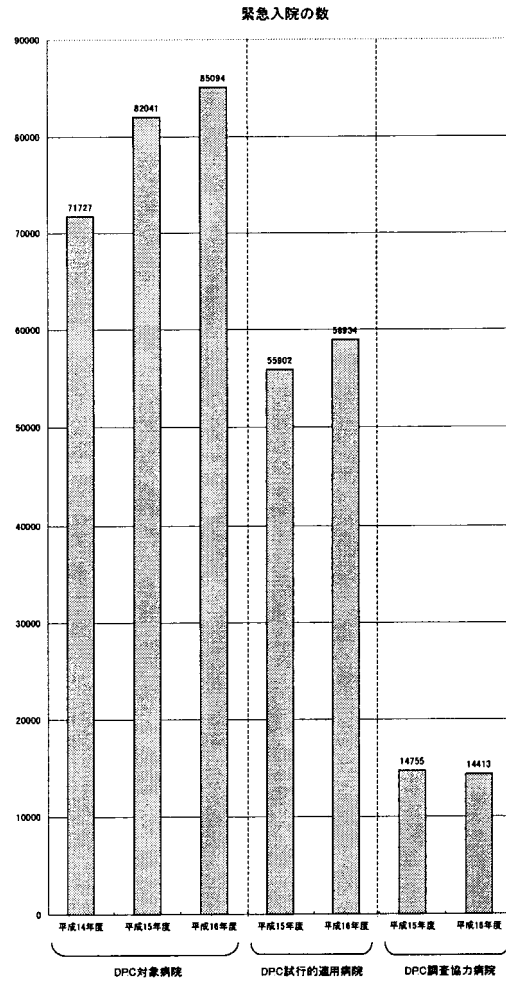
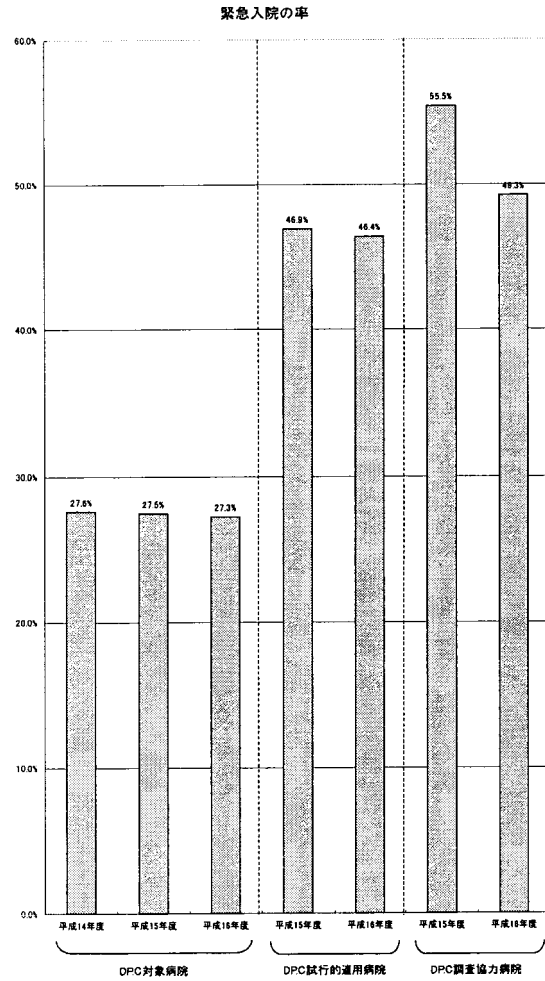
他院よりの紹介ありの数



他院よりの紹介あり 1施設あたり数



## 緊急入院の率・数



# 救急車による搬送

